

# 福音を味わいましょう

月曜日

8

## きょうのみことば

エペソ 6:10~20

すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。(18)

遊園地に遊びに来た子どもが、フリーチケットを持って、どうしたらいいかわからなくて、あちこち回りながら乗り物を見物していました。

「ああ、これ本当に最高だ!あの乗り物、本当におもしろそうだ!」

その子は、遊園地をぐるぐる回って、乗り物を思い切り見物しました。フリーチケットを持っていれば、遊園地の中にある乗り物は、みんな乗ることができるのに、乗り物には乗らずに、見物だけしました。

みんななら、すぐに気に入った乗り物に乗るでしょう。

福音も同じです。福音は、フリーチケットより100万倍ももっと良いことです。しかし、多くのレムナントは、福音を受け取っておいて、まったく使おう(味わおう)としません。

福音は、どのように味わえるのでしょうか。

日曜の講壇のみことばと<子どもの祈りの手帳>に出ているみことばを持って、毎日、時間を決めて、定刻礼拝をささげてみてください。使徒信条で礼拝をはじめ、好きな賛美の一つを選んで歌ってみてください。聖書を開いて、今日のみことばの聖書箇所をさがして読んでみて、みことばをゆっくりと読んで黙想してみよう。祈りの課題や、考えていること、伝道したいと思っている友だちの名前を書いておいて、祈ったあと、主の祈りで礼拝を終わりにします。

このように、福音を礼拝で、賛美で、祈りで、伝道で味わってみれば、人の間にできる誤解(サタンがあたえる考え)にだまされません。それまでは勉強(仕事)が、したくなくて、押さえられる時が多かったでしょうが、福音を味わえば、勉強(仕事)が楽しくなります。また、教会の中で起きるすべてのことを不信仰の目で見ずに、信仰の目で見るとゆうゆうと勝利しましょう。

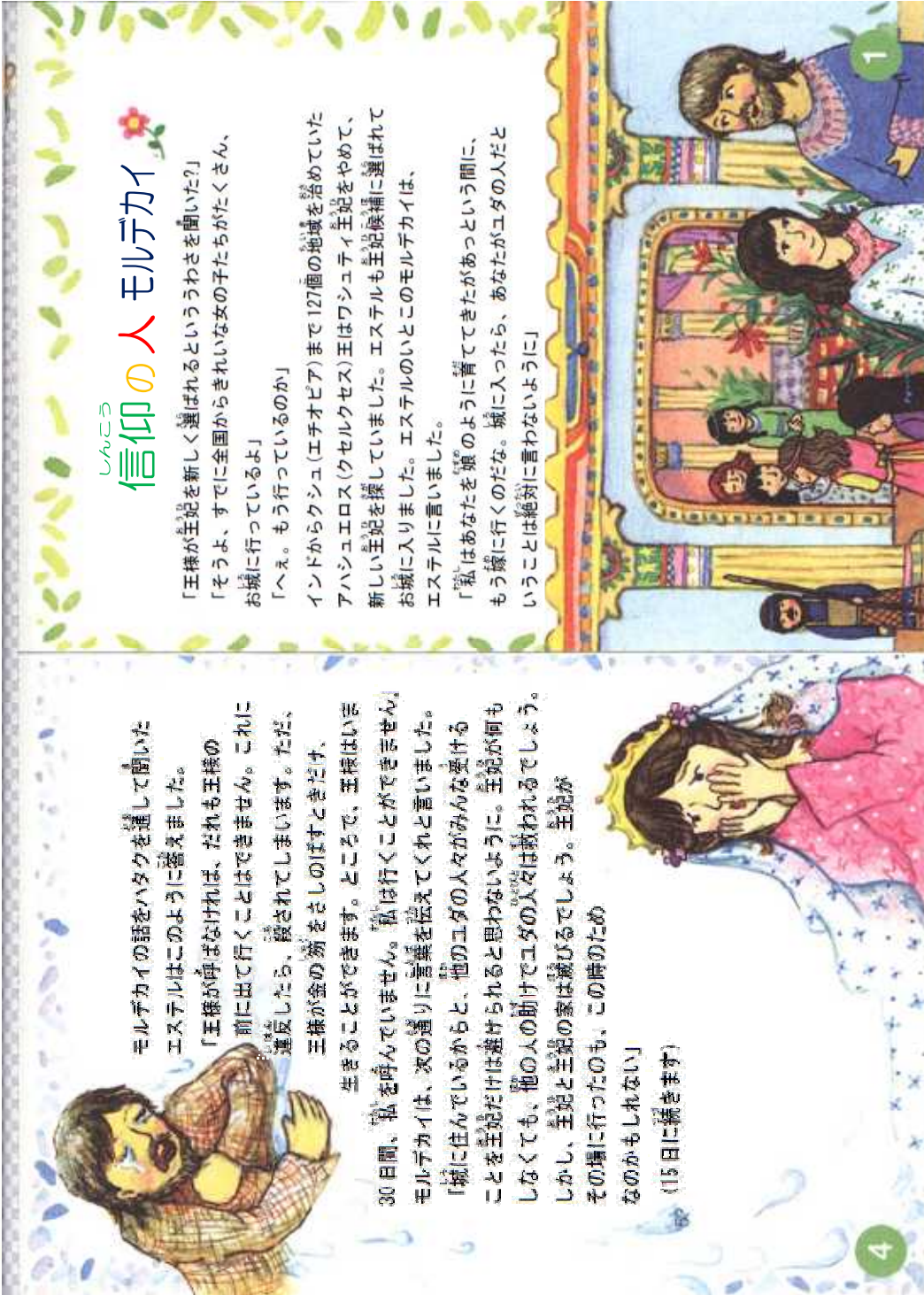
福音をあたえてくださった神様に感謝します。いままでフリーチケットを持っているだけの子どものように、福音を持っているだけでした。今日から礼拝で、賛美で、祈りで、伝道で福音を思い切り味わいたいです。ふりそそぐ雨のような恵みをいつもそそいでください。イエスキリストのお名前によってお祈りします。アーメン

※定刻祈りの点検: 昼 12時 教会のために祈りましょう。夜 9時 RUTCのために祈りましょう

## 信仰の人 モルデカイ

モルデカイの話をハタクを讀んで聞いたエステルはこのように驚きました。  
「王様が呼ばなければ、だれも王様の前に出て行くことはできません。これに違反したら、殺されてしまいます。ただ、王様が金の箱をさしのぼすときだけ、生きることができません。とところで、王様はいま30日間、私を呼んでいません。私は行くことができません。モルデカイは、次の通りに言葉を伝えてくれと言いました。「城に住んでいるからと、他のユダの人々がみんな受けることを王様だけは避けられると思わないように。王様が何もしなくとも、他の人の助けでユダの人々は救われるでしょう。しかし、王様と王様の家は滅びるでしょう。王様がその場に行つたのも、この時のためなのかもしれない」  
(15日に続きます)

「王様が王妃を新しく選ばれたいといううわさを聞いた?」  
「そうよ、すでに全国からきれいな女の子たちがたくさん、お城に行っているよ」  
「へえ。もう行っているのか」  
インドからクシュ(エチオピア)まで127個の地域を治めていたアハシュエロス(クセルクセス)王はワシュティ王妃をやめて、新しい王妃を探していました。エステルも王妃候補に選ばれてお城に入りました。エステルのいとこのモルデカイは、エステルに言いました。  
「私はあなたを娘のように育ててきたがあつという間に、もう城に行くのだな。城に入ったら、あなたがユダの人だということは絶対に言わないように」



# あそ ば 遊び場でいっしょに遊びましょう

火曜日

9

## きょうのみことば

使徒 9:36 - 43

ヨッパにタビタ(ギリシヤ語に訳せば、ドルカス)という女の弟子がいた。この女は、多くの良いわざと施しをしていた。(36)

遊び場は、子どもの活動舞台です。さあっとすべり台をすべることもでき、ぶらぶらとブランコにも乗ることができます。くるくると回転する乗り物を回しながら遊ぶこともできます。ところで「こわい!」と言いながら、乗らなかつたらどうでしょう。自分だけ損でしょう。

### 1. 霊的遊び場

とくいになって走れる所が遊び場ならば、霊的遊び場はどこでしょうか。現場です。「はずかしいのに、福音をどのように伝えるの」というレムナントがいます。そのようなこともあるでしょう。しかし、霊的遊び場でもおもしろく飛び回った人々がいます。それは初代教会のレムナントたちです。

### 2. 現場で走りまわりましょう

イエス様が天にあげられて、タラッパンに集まって祈った初代教会は、五旬節の日、聖霊様を体験しました。聖霊様がくださる満たされる力を受けた人々は、こわくなることがありませんでした。それで「イエス様が私たちが待った救い主(キリスト)だ!」と話しました。人々がこの話(福音)を聞いてイエス様を信じて、パリサイ人と大祭司が、初代教会をしめだして、困らせて、殺すことさえしました。しかし、彼らはがっかりしたり、あきらめたりしませんでした。さらに得意になって霊的遊び場で走って遊びました。その結果、初代教会が行く所ごとに救われる人々がみな救われて、重要な弟子が発見できて、教会の中枢である重職者が立てられました。そして、偶像と占いでいっぱいだった現場の暗やみの文化が、福音文化に変わりはじめました。みなさん、今日、しばらく霊的遊び場で初代教会のように得意になって遊んでみませんか。

神様、霊的遊び場である現場で福音で得意になって遊びたいです。そのために、初代教会のレムナントのように、聖霊様がくださる満たされる力を受けなければならないでしょう。いま、この時間、聖霊で満たしてください。そして、現場で得意になって遊ばせてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

※ 定刻祈りの点検：昼 12 時 教会のために祈りましょう。夜 9 時 RUTC のために祈りましょう



お城は全国から来た美しい女の子たちでいっぱいでした。しかし、そのだれよりもエスネルがもっとも美しくかったのです。王もエスネルを一番好きになって、王冠にしました。ある日、モルデカイはお城の門に座っていて、王を殺す陰謀をたくらんでいる話を聞くようになりました。エスネルは王に話しました。

「王様を殺そうとしている者がいるそうです。モルデカイが偶然に聞いて、私に言ってくれました!」  
 「ほんとうか。みなもの者! このことを徹底的に調査しろ!」  
 王の命令を聞いた家来がこのことが事実であると明らかにしました。このすべてのことは、王が見ている前でお城の白紙に書かれました。



アガザ人ハメダダの息子ハマンは王から殺されていた部下でした。王は彼を高い位において、人々がハマンおじぎをするように命ずりました。そのようなる日、モルデカイは、ハマンの前を通り過ぎるようになりました。モルデカイは、ハマンにおじぎをしなかつたのです。その事案を知ったハマンは、さんざんとものですこく怒りました。

「私がモルデカイをほうっておくわけにはいかない!」  
 アタルの月 13 日に、ユダヤ民族をみんな殺してしまおう!」  
 このことを知るようになったモルデカイは、腹をやぶって、箒掃を着て、炭をかぶったまま城の中に入って、大きい声を出して泣きました。そして、これらすべての事案をエスネルに言つて、王に直達行つて、自分の民のために王にあわれみを求めるようにと頼みました。

水曜日

10

### きょうのみことば

出 24:1-8

モーセはその血の半分を取って、鉢に入れ、残りの半分を祭壇に注ぎかけた。そして、契約の書を取り、民に読んで聞かせた。すると、彼らは言った。「主の仰せられたことはみな行ない、聞き従います。」そこで、モーセはその血を取って、民に注ぎかけ、そして言った。「見よ。これは、これらすべてのことばに関して、主があなたに結ばれる契約の血である。」(6-8)

## 待つ祝福のはじまり

アブラハムは 25 年、イサクは 20 年、ヨセフは 13 年、ダビデは 15 年、モーセは 80 年を待ちました。なぜそのように長い時間、待ったのでしょうか。神様があたえられる完全な答えを受けるためにです。

### 1. 神様の完全な答えを待ちましょう

エジプトからカナンまで、1週間あれば行けます。しかし、イスラエルは、40年たって到着しました。なぜ神様はそのようにされたのでしょうか。このイスラエルに向かった計画があったためです。イスラエルは400年間、エジプトにしながら奴隷の体質にそまっていた。神様はイスラエルが奴隷体質からぬけ出す時まで、40年間、待たせられたのです。

### 2. 神様の完全な福音を回復しましょう

モーセはシナイ山で、羊の血を祭壇にふりかけました。十字架にかかれるイエス様を\*予想したのです。一度も行ったことがないカナンという所に行くなら、数多くの問題と困難に会うようになります。しかし、羊の血(完全な福音)をにぎれば勝利できます。レムナントも、4月になれば、新しい学年、新しい先生、新しい友だちに会います。一度も体験していないことで、こわくなることもあるでしょう。なぜかときめく事もあり、また思いもよらないむずかしいことに会うこともあります。しかし、完全な福音を回復すれば、どんな困難と問題と悲しみが来ても、十分に勝てます。

\* 予想: キリヤン(クリスチャン)の用語で、イエス様が来られる前の旧約聖書で、イエス様のことをあらかじめ(予)あらわしている(表)という意味。

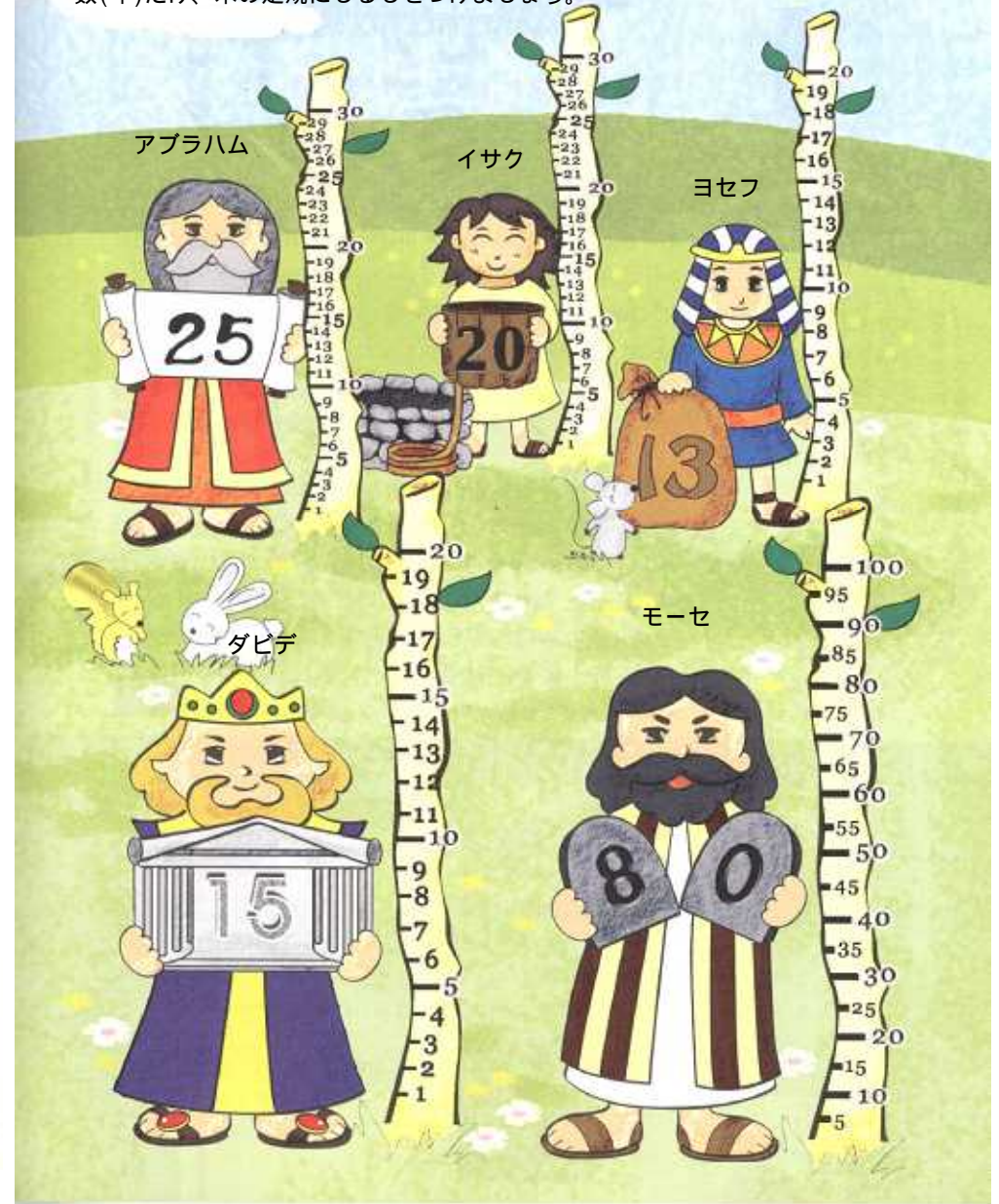
神様、答えがすぐに来なくて、あきらめたいことがありました。しかし、今日のみことばを通して、完全な答えをあたえてくださるためだと知ることができました。信仰の人々のように、神様の計画を待ち望みながら、待つことができる人にならせてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

定刻祈りの点検: 昼 12 時 教会のために祈りましょう。夜 9 時 RUTC のために祈りましょう

## 完全な答えを待った人々

神様の完全な答えを受けた信仰の先祖たちが、ずらっと立っています。答えを待った数(年)だけ、木の定規にしるしをつけましょう。



木曜日

11

### きょうのみことば

ローマ 12:14~21

愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。(19)

## 福音をもったレムナントの力

サタンは文化を通してレムナントの無意識に「神様のかたちである人間は弱い」というメッセージを入れます。

### 1. 世の中の文化の中で神様の力をあらわしましょう

神様をはなれた世の中は、創造主の神様に敵対します。文化(偶像、悪霊、淫乱など)を通じて、神様のかたちである人間をだまして、奴隷のようにこき使います。それで、映画、本、ゲームなどをする時、無条件にはまってしまうのではなく、霊的な目で見て解釈するべきです。そして、イエス様を知らない友だちに、この事実を知らせてあげなければなりません。そのような小さい出会いを通して福音が広がります。これが福音を持ったレムナントの力です。

### 2. 問題と葛藤の中で神様の力をあらわしましょう

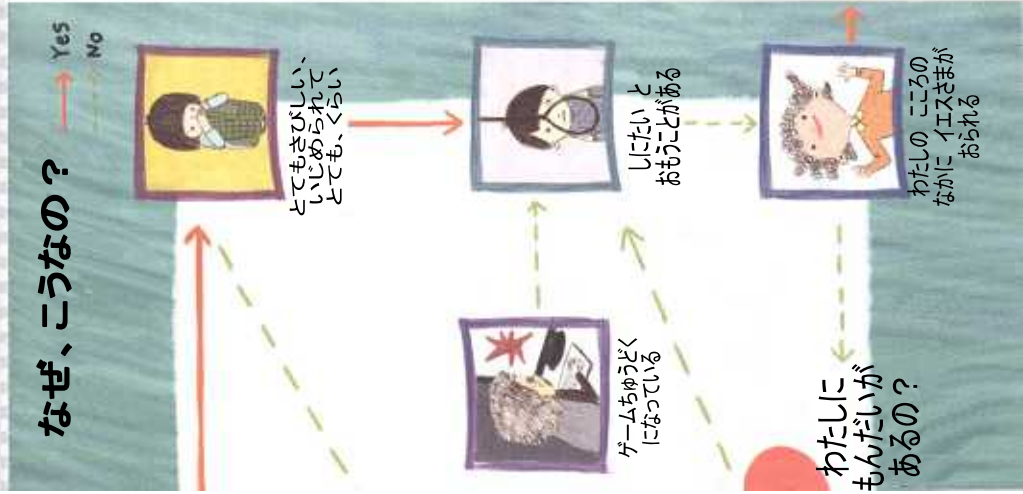
問題と葛藤という大きな障害物に会っていますか。サタンはレムナントが、問題と葛藤につまずくことを願っています。それで「できないよ。大変じゃないか。あきらめよう。次にしよう」とささやきます。レムナントは、神様の子どもです。神様にすべてのものをまかせて祈ってみてください。祈りをすれば問題と葛藤をとびこえて、神様の力を現わすようになります。私の力ではサタンに勝つことができませんが、神様の力では勝てます。この時、サタンはぶるぶるふるえて身動きできません。

良い神様。神様の子どもとしてくださって、ありがとうございます。問題と葛藤の前だけでなく、すべてのことの中で、神様の力をあらわす、すてきな福音を持ったレムナントになるように聖霊で満たしてください。サタンの頭をふみくだかれた王の王であるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

※ 定刻祈りの点検：昼 12 時 教会のために祈りましょう。夜 9 時 RUTC のために祈りましょう

次のページとその次のページは、切りとって、表裏ではって、3つおりにすると伝道トラクトになります。

なぜ、こうなの？



# ちよつと放っておいてよ！



神様は人々が苦しむしみのの中に生きていることを願っておられます。それで、救い主(キリスト)であるイエス様を送られたのです。

人々はやさしくして、よいことをたくさんすれば、神様に会えると思いがちです。科学が発展すれば、神様に会えると思いがちです。科学が発展すれば、すべての病気が解決して、すべての問題がなくなると思っています。

宗教はみな同じだから宗教者を持つては救われると考える人もいます。

神様に会うとだ一つの違いは、ただイエス様だけです。「真の預言者」私たちの罪をゆるしてください。ただイエス様だけです(真の祭司) サタンの権威をうちくだけなければ、ただイエス様だけです(真の王)

今、この瞬間、イエス様を信じて受け入れれば、すべての問題から解放されて、神様の子どもになれます。

「神様、私は罪人です。私を救うためにキリストとして来てくださり十字架上で死んでください。復活してください。すべての問題を解決してください。心の中を聞いて、イエス様を私のキリストとしてお受けします。過去、現在、未来のすべての罪を十字架の血ですべて洗い流してください。感謝します。今から永遠に行くその日まで、祈っています。イエス様の御名前によってお祈りします。アーメン」

# 旧正月は福音を伝える日

（訳者注：韓国は2010年2月14日が旧正月で、日本のお正月のように家族がそろってお祝いして、お店も休業になるところもあります。）



## きょうのみことば

ローマ 12:14~21

韓国では、旧正月になれば法事をします。先祖が法事のごちそうを食べにくると思うからです。しかし、法事は「悪霊と交わる」ということです（イコリント 10:20）。

### 1. 全世界が災いにおちいります

偶像崇拜をすれば「お父さんから息子に三、四代」が滅びます（出20:4~5）。災いとどのろいは、博士も、金持ちも、王も、力強い横綱も解決することができません。善行の道、奉仕の道、科学の道、お金の道、名誉の道、知識の道、イケメンの道でも、ぬけ出すことができません。

2. ただイエス様だけが解決できます

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」（ヨハネ 3:16）神様が災いとどのろいからぬけ出す一つの道を開かれました。その道がイエス様です。ただイエス様だけがすべての問題を解決します。

### 3. 伝道は神様の願いで、神様の命令です

旧正月になれば、家族みんな、親戚が一堂所に集まります。レムナントは、その人々を災いとどのろいの中から救い出さなければなりません。そばにいる伝道者を活用して、蛇のようにかしくく、鳩のようにすなおに、福音を伝えてみてください（マタイ 10:16）。伝道は神様の願いで、神様の命令なのです。

神様、もうすぐ旧正月です。何かもらえることばかりを考えていますが、今日のみことばを通して、神様の願いや命令が伝道であることを知りました。家族と親せきをつかまえているサタンを縛ってください、蛇のようにかしくく、鳩のようにすなおに福音を伝えることができるように聖霊で満たしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

✪ 定刻祈りの点検：昼 12 時 教会のために祈りましょう。夜 9 時 RUTC のために祈りましょう

わたしは

こういひとです

じぶんが きれい

いえに ぶつらんが ある

こわいゆめをかいたり かなしばりに あつたりする おぼけが みえる

なぜ こんな



もしかして、地面を歩いている魚を見たことはある？  
それでは、空をふわふわ飛んでいる木は？



魚は水の中を、鳥は空中を飛んで、木は地面に葉々と根をおろしながら生きていてこそ幸せでしょう。人も同じです。神様のかたちとして造られた人は、神様とともに生きていくときに幸せなのです。

ところが、問題ができたのです。サタン（悪魔）にだまされて人が神様をはなれてしまったの。その時から人は罪とのろいの中で生きるようになったの。あなたを困らせるすべての問題は、この時からできるようになったのです。

神様をはなれたサタンの人は、目には見えなけれど、サタン（悪魔）というものにつまって、奴隷のようにして生きるようになりました。

私はそうではないと思っていますか。とんでもないです！ 木、石、月、人が作ったものか、形におじぎをしたり、先祖に手を合わせていただきます。悪霊とつきあうことです。サタン（悪魔）は、ねたみにくしみ、しつと、もんく、こわいことを心に入れます。こわい夢をみたり、金しばりにあつたりします。他の人々は見えませんが、私だけ悪霊が見えて、他の人々は前こえないのに、私だけ前こえるようにささやいて困らせるのです。

貧しさ、難病、暗い気分、自殺したい心、直すことができない病氣、ケムシ・お酒・タバコ・麻薬中毒などで人を苦しませて滅ぼします。ところで、この問題は終わることがないのです。地獄で永遠に苦しめられるようになります。

また、この問題が私だけで終わるのではなく、私の子どもにも降りて伝えられて行くのです。この問題を解決するために



13日(土)



## 心からの感謝 かんしゃ

「ごめんね。家がとてもせまいだろう」

光世は、妻の綾子をまっすぐ見つめることができなかった。

「いいえ、あなた。本当に幸せです。」

綾子は、ひっこし荷物をおろしながら話した。

「神様は、私たち夫婦を本当に愛されています。このように台所とお手洗いがくっついているから、あなたがお手洗いにおいて、私が台所においても話をする事ができるでしょう」

綾子は、夫の光世の手をしっかりとにぎって言った。

三か月が流れて、光世と綾子は、お店をひとつ持つようになった。路地の入り口の小さい店だったが、場所がよかったのかお客さんが多かった。そのようなある日、綾子が家の中に入ってきながら話した。

「あなた、あの下にある店は、あまり商売がうまくいっていないみたい。

私たちの店があるから、人々が下まで降りて行って、物を買わないようよ。人々がその店も利用できるようにしなければ」

定刻祈りの点検：

昼 12時

教会のために祈りましょう。

夜 9時

RUTCのために祈りましょう

綾子は、光世ににっこりと笑った。

次の日、綾子と光世が物を整理していた時、お客さんが入ってきて、豆腐をくださいと言った

「お客さん、すみません。私たちは、豆腐は売っていません。下に店が一つあるのですが、そちらに行ってくださいたら、あるでしょう」

「豆腐をおいていたら、お客さんを取られないのに、なぜおいておかないのか。

他の店に行けと親切に知らせるまでするとは、まったく理解できないねえ」

お客さんは、綾子の言葉にとてもおどろいてたずねた。

「神様がこのようによい店もくださって、商売までうまくいくようにされるから

どれくらい感謝かわかりません。でも、私たちの店のために他の店が商売がよくならないのは、神様が喜ばれることではないでしょう。それで、私の店にないものは、他のお店で買ってくださいと言うのですよ」

お客さんは、綾子の話に感心した。そして光世を見つめながら話した。

「あなたは本当によい奥さんを持っていますね。小さいことに本当に感謝して人のことを考えることができる奥さんを持ったあなたがうらやましいですね」

光世は、ごちなく、手で頭をあちこちかきながら話した。

「はい、私の妻は、どんな苦しみの中でも感謝を見つけ出すのですよ。

そんな私の妻の姿を見ながら、私も感謝を発見するようになります」

